



雪印メグミルク

「酪農の未来を拓くお手伝い」

RDCD NEWSLETTER

～RESEARCH & DEVELOPMENT CENTER FOR DAIRY FARMING～

2026 7

No.7

このたびの人事異動により、当研究所では新たな仲間を迎えるとともに、これまで研究所の活動を支えてきた職員が新たな職場へと活躍の場を移しました。本号では、転任者および着任者から寄せられたメッセージをご紹介します。

転任ご挨拶

酪農総合研究所 副部長 越智 成東 |

このたび、定年退職を迎え、4月1日付で東京本社（サステナビリティ推進部）へ転任することとなりました。酪農総合研究所に在籍した期間、多くの皆さまに支えられながら業務に携わることができました。調査研究や情報発信、各種事業の運営を通じて、生産現場や関係機関の皆さまと関わる機会に恵まれ、大変貴重な経験を積むことができました。また、日々の業務の中でいただいたご指導やご助言、温かい励ましの言葉は、今後の業務に取り組む上での大きな支えとなります。新しい職場においても、酪農総合研究所で培った経験や学びを活かしながら、関係する皆さまとのつながりを大切に、微力ながら組織の発展に貢献できるよう努めてまいります。在任中にお世話になりました皆さまに、改めて心より御礼申し上げますとともに、酪農総合研究所のさらなる発展と、皆さまのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。



津田所長より感謝状を受取る越智副部長（写真左）

着任ご挨拶

酪農総合研究所 副部長 村田 雄一郎 |

このたび、4月1日付で越智の後任として着任いたしました。これまで酪農業務（原料乳調達）に長年携わってまいりましたが、このたび伝統ある酪総研の一員として勤務できることを大変光栄に思っております。酪農・乳業を取り巻く環境は大きく変化しており、現場の課題解決や持続的な発展に向けた調査研究、酪総研からの情報発信の重要性はますます高まっています。そのような中で、研究所の活動を通じて生産現場や関係機関の皆様のお役に立てるよう努めてまいりたいと考えております。一日も早く業務を覚え、皆さまのお力になれるよう精進してまいります。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

Topic 01

酪総研ロゴマークが特許庁に 商標登録されました！



酪農総合研究所の新ロゴマークが、特許庁において正式に商標登録されました。本ロゴは研究所創立50周年を記念して制作したものであり、研究所の歴史と未来への想いを込めています。今後は研究所の「顔」として、各種研究事業や情報発信の際に活用してまいります。

本ロゴマークを通じて、より一層の酪総研の認知拡大と情報発信の充実を図ってまいります。

Topic 02

雪印メグミルク杯（スキージャンプ） で酪総研ブースを出展！！

2026年2月1日（日）に大倉山ジャンプ競技場で開催された「第67回雪印メグミルク杯ジャンプ大会」において、酪農総合研究所はPRブースを出展しました（来場者は約2,000人）。

当日は、酪農や乳牛への理解を深めていただくことを目的に、研究所の活動紹介に加え、お子さまを中心に人気を集めた搾乳体験コーナーを実施しました。参加者の皆さまには、実際の乳牛模型を使った搾乳体験を通じて、牛乳が生産される仕組みや酪農家の日々の取り組みについて学んでいただきました。



酪総研・酪農部・乳機工場運営メンバー



牧草サイレージについて説明する越智副部長



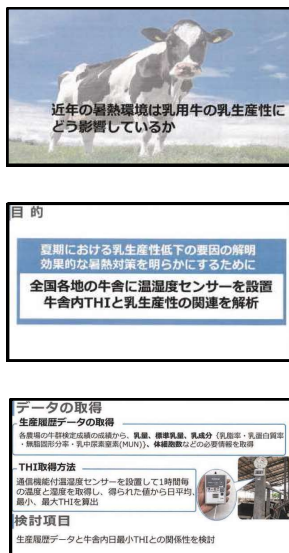
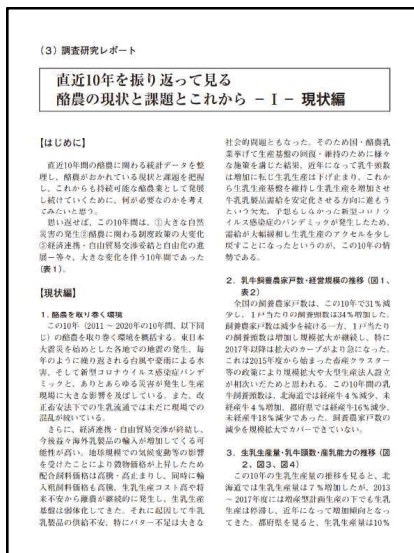
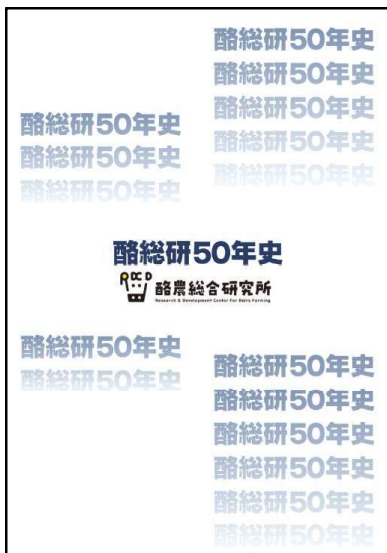
子供に大人気の搾乳体験（乳しぼり）



酪農総合研究所の展示コーナー全景

Topic 03

酪総研50年史（記念誌）を発行！



酪農総合研究所では、創立50周年記念事業の一環として『酪総研50年史』を刊行しました。本誌はA4判256ページの記念誌で、研究所の設立から現在までの歩みをはじめ、これまで実施してきた調査研究や情報発信活動、各種シンポジウムの開催記録などを収録しています。また、歴代所長や関係者による寄稿、生産現場での調査事例なども掲載し、研究所50年の軌跡を振り返る内容となっています。

酪農・乳業を取り巻く環境が大きく変化する中、研究所が果たしてきた役割や現場との関わりを改めて整理するとともに、次の50年に向けた新たなスタートを考える機会となる一冊となっています。本誌は非売品として関係者限定で配布しており、多くの皆さまに支えられて歩んできた研究所の歴史と活動を広く知っていただくことを目的としています。今後も酪農総合研究所は、現場に根ざした調査研究と情報発信を通じて、わが国の酪農・乳業の発展に貢献してまいります。

※本記念誌は、国立国会図書館に納本しており国会図書館の全国書誌データより検索可能で、国会図書館内での閲覧も可能です

Topic 04

2025年度 日本の持続可能な酪農研究会で事例紹介発表を行いました！

2026年3月2日に一般社団法人「ミルク」が主催する「2025年度日本の持続可能な酪農研究会」が開催されました。本研究会は、国内外における持続可能な酪農の動向や先進事例を共有し、今後の酪農・乳業の発展について考えることを目的として開催されたものです。

酪農総合研究所からは、越智副部長が登壇し、「リジェネラティブな酪農とは ～北海道の事例より～」と題し事例報告を行いました。各乳業メーカーからの本報告では、北海道の酪農現場における土壌・草地の健全性向上、生物多様性への配慮や持続可能な飼料生産などの取り組みが紹介され、リジェネラティブ（環境再生型）酪農の考え方や実践事例についての説明もありました。近年、酪農・乳業を取り巻く環境は大きく変化しており、環境負荷の低減や持続可能な生産体制の構築が重要な課題となっています。

本研究会ではこうした課題への対応や将来の酪農のあり方について活発な意見交換が行われました。酪農総合研究所は今後も、調査研究や情報発信を通じ、生産現場に役立つ知見の提供と持続可能な酪農乳業の発展に貢献してまいります。



酪農研究会で講演を行う越智副部長

Topic 05

牧草展示圃を整備しました！

酪総研がある北海道支社（札幌市苗穂町）では、グループ会社の雪印種苗が品種開発したアルファルファ牧草「ケレス」の展示圃場が設置されています。酪農と乳の歴史館の横にあり、乳牛模型の前に牧草地を再現しています。

歴史館へ来場されるお客様に実際の生育の様子や牧草についての理解醸成をしていただく貴重な場にもなっております。酪総研メンバーが定期的に管理をしておりますので、ぜひお近くにお越しの際はご覧ください。

※酪農と乳の歴史館・・・最寄駅のJR苗穂駅から徒歩約15分（酪農と乳の歴史館見学は「事前予約制」となります）



当日の発表会で使用したPPスライドより



酪農総合研究所
Research & Development Center For Dairy Farming

